

車両更新時に観光列車

公共交通県民ネットが集い

19/2富山

あいの風鉄道が導入

「数年後」1編成増で対応

県内の並行在来線を運営する「あいの風とやま鉄道」の市井正之社長は11日、富山市の自治労とやま会館で講演し、今後、旧型車両の更新時期に合わせて観光列車を導入する方針を示した。時期は経営状況などによって前後する可能性があるが、「開業から数年程度後」（市井社長）となる見通し。同社が運行する21編成に1編成を追加して対応し、観光客らの利用促進につなげたい考えだ。

旧型車両更新時に

観光列車導入検討

あいの風鉄道社長

19/2北

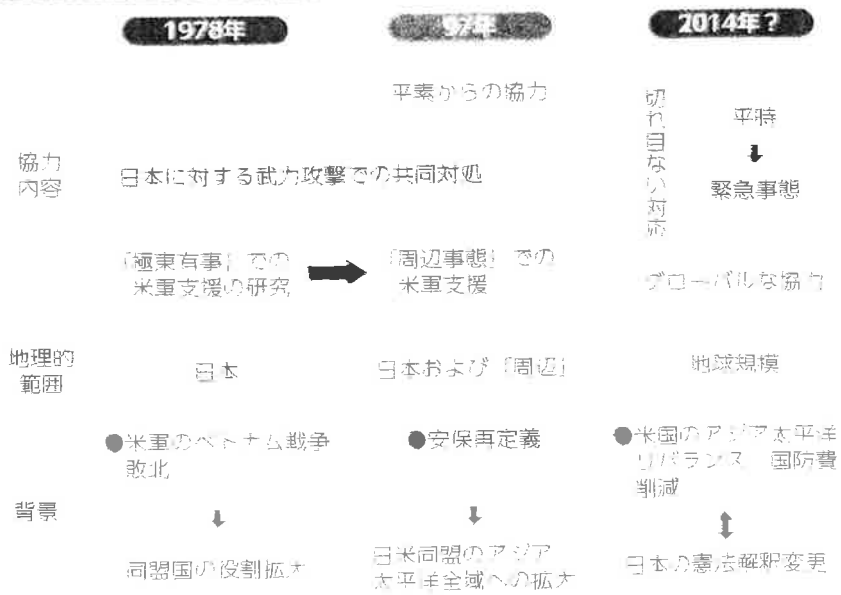
来月3月の北陸新幹線開業後、JRから並行在来線（北陸線の県内区間）の運営を引き継ぐ第三セクター「あいの風とやま鉄道」の市井正之社長が11日、富山市の自治労とやま会館で講演した。市井社長は、全国で導入が相次ぐ観光列車について「旧型車両の更新時期に入れることを考えたい」と意欲を示した。

「あいの風」が運行する車両は21編成で、新型の521系が16編成、旧型の413系が5編成ある。旧型車両は50

年以上が経過し、老朽化が進む。更新時期は未定だが、旧型車両を新しくする際に、観光列車の導入を検討する。市井社長は「あいの風」が開業時に導入する交通ICカードに関連し、IC定期券が開業1年後の2016年春に使えると説明した。

講演は公共交通を守る県民ネットワーク（田尻繁、能町和雄両代表委員）が開き、約180人が参加。田尻氏は「地域に密着した日本一のローカル鉄道を目指し、安全輸送をお願いしたい」とあいさつした。

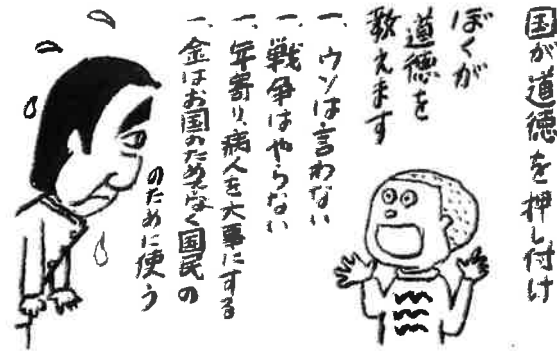
ガイドラインの変遷



「後方地域」三同一事態「排除

地理的な制約なし

ガイドライン 中間報告 地球規模で米軍補完



- 14(水) 県勤労協幹事会 (18:00 自治会館)
- 15(木) さわやかコンサート (18:30 富山市民プラザ)
- 19(月) 海渡雄一講演会 (10:00 高田商エビル 14:00 富山サンフォールト)

・公共交通
・県民ネット
・自治労とやま会館
・富山県民ネット